

較的高かりしが、會社は此際整理をなすと稱して、一樣に三割の増給をなさずして、從來低かりし者には多く從來より多かりしものには少くし、其の結果少きは一割に過ぎず、多きは十割に及び、甚だしく不公平なりとの感を起さしめ、殊に要求をなしたる工作夫は増給少なりしを以つて、甚だしく其の不平を買ひたりき。此の増給は十月二十五日の日附にて、十一月五日發表ありたり。

六、職工の増給要求と共に、所員にも亦其の聲ありしを以つて、會社は労働者の増給發表に先立ちて、所員に一率に四割の増給をなせり。

七、大日本労働同盟會に於ては釜石にも其の加入を勧めつゝありき。十月初め、會社は其の宣傳者を解雇するのみならず、其の一族を悉く解雇せり。茲に於て、解雇せられたる労働者は足尾の本部に行きて來援を乞へり。同盟會の幹部、其の要求に應じ十一月初め來釜せり。之れ今回の紛擾の導火線なりとす。

尙、今回の紛擾に付き注意すべきは、所員及町民の釜石鑛山に對し不快の念を有し居たりしたため、所員は同盟會の入會の届書の代書をなす等、精神的に應援し、町民も演說會場を提供して労働者を助けたりしことなりとす。

第二節 紛擾經過

大日本鑛山労働同盟會の福田、羽島氏等の一行は先づ大橋採鑛場に來り、四日迄滞在、演說會を開きしも、鑛山側に於て壓迫を力め鑛夫の傍聽を禁止したるを以て、不成功に終れり。然れども彼等は之に屈せず、忽ちにして千餘の入會を得、超へて九日、釜石支部の發會式を開き役員を定め（支部長荒木田氏、副支部長佐野氏、前者は元代書業、後者は元所員、共に鑛山に對して多大の反感を抱き居りしと）次に掲ぐる十八箇條の要求をなすと共に、實行委員三十名を選任せり。事務所側にては、大橋採鑛所に於ては壓迫を加へたるも釜石にては放任せり。

現在に於ける同盟會々員數は二千餘名、中三十名は女にして、内譯左の如し。

（鑛夫總數は三千五百名）

採鑛係	一四五	製品部	三二〇
製銅部	二一四	工作部	一八〇
運輸部	一一〇	電氣部	四六
製銅部	七六	鑄鐵部	一一〇
用度部	二六	運輸回送部	三〇

第一釜石鑛山に於ける紛擾事件